



札幌市議会議員 厚別区

# こじま ゆみ

健やかな笑顔をつなぐ安心安全なまちづくり

## 物価高騰対策・新型コロナウイルス感染症対策

### ●出産・子育て応援推進

妊娠・出産時の負担軽減を図るため寄り添い

給付金**妊娠時5万円・出産時5万円**を支給します。

対象者：R4年4月以降に妊娠届出書を提出した妊婦の方

R4年4月以降に出生した児童を養育する方



### ●札幌プレミアム商品券事業

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を受けている市民生活の支援及び地域経済の活性化を目的としたプレミアム付き商品券を発行。

【事業の枠組み】

**1冊5,000円分を4,000円で販売**

**(500円券×10枚綴) 発行冊数150万冊**



札幌市内の小売店・飲食店等の約9,000の参加店舗で使用可能です。

## こじまゆみのプロフィール

○昭和41年8月28日生まれ。

札幌東高、札幌医科大学衛生短期大学看護学科を卒業

札幌社会保険総合病院ほかで勤務

○平成19年札幌市議会議員に初当選、現在4期目

厚生常任委員長、総務常任委員長、札幌市議会自民党議員会政審会長など多くの役職を務める

現在、札幌市議会自民党議員会副会長、札幌・石狩地方議員連絡協議会会長、新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員会委員長などを務める

## 子ども医療費の助成拡大を実現します！

札幌市は平成30年に小学校1年生に拡大したのち、段階的に小学校6年生までを対象に通院医療費を助成しています。

政令市20市で比較すると7市が高校生までを助成対象としており、中学生までが9市、小学生に留まっているのは札幌市を含め川崎、岡山、広島の4市です。このうち川崎は令和5年度に中学生まで拡大し所得制限も撤廃することを表明しています。所得制限があるのは札幌と広島のみで、中学生までの仙台や横浜では令和5年度に所得制限を撤廃する予定であり、各地で助成対象の拡大が進められています。

札幌市の子育て世帯では約2万世帯が所得制限の影響を受けています。病気や怪我など不測の費用である医療費の不安を解消し、出生率増加の一施策として極めて有効であり、安心して子育てできるように全ての子どもたちに医療費を助成することが必要です。子ども医療費助成を早期に中学生までに拡大し、所得制限を撤廃するとともに高校生までに拡大するよう全力で取り組みます。



### 政令指定都市

新潟、名古屋、静岡、浜松、堺、大阪、北九州

### 道内市

根室、稚内、芦別など8市



高校

### 政令指定都市

仙台、さいたま、千葉、横浜、相模原、京都、神戸、福岡、熊本

### 道内市

函館、旭川、室蘭、網走など12市



中学

### 政令指定都市

札幌、川崎、岡山、広島

### 道内市

小樽、帯広、北見、岩見沢など10市



小6



子ども医療費助成  
主な都市の状況



# 町内会活動の支援拡充を実現

## 「未来へつなぐ町内会ささえあい条例」制定

財政市民委員会で進めてきた札幌市の町内会条例が令和4年第3回定例会で可決、令和5年4月1日施行いたします。地域を支える町内会支援策が大きく拡充・強化されることで、町内会・自治会がさらに活性化し発展していくように取り組んでまいります。



### 住民組織助成金の制度を拡充

町内会の自主的な活動への支援強化のために助成額を引き上げます。

- 単位町内会：1世帯当たり 130円→**260円**
- 連合町内会：1世帯当たり 100円→**120円**



### ゴミステーション管理器材への助成拡大

ゴミステーションの管理器材で、民有地を確保し共用の管理機材を設置する場合の助成率・限度額を引き上げます。

- 助成率：1/2→**3/4**
- 限度額：50,000円→**75,000円**

### 集団資源回収の奨励金の引き上げ

集団資源回収に取り組む町内会等に対する奨励金を古紙、びん、金属等の回収量に応じて引き上げます。

- 回収量 1kg あたり：3円→**4円**
- 1 団体あたり：平均 **7,600円増**



### ボランティア活動の環境整備

市民が安心して参加できる環境づくりのため、活動中の賠償責任等を補償対象とするボランティア保険に市が一括で加入し保険料を負担します。



### 私設街路灯への助成

撤去費用補助の新設 1 灯あたり **17,000円**  
町内会が設置する街路灯の維持や LED 化に係る経費の補助と、設置更新時等の**既存設備撤去費用**への補助を新設します。



## 雪や災害に強い安心安全なまちづくりを推進します！

### 機動的な除排雪を実施するための予算を増額

- 大雪時でも市民生活への影響を最小限とするため臨機応変に対応

【大雪時の対応】

- ・判断の時期：12月中旬～1月上旬
- ・判断の目安：積雪深が50cmに達する等、大雪が見込まれる場合
- ・道路脇の雪山を全て排雪（従来の一部残す排雪から変更）
- ・雪堆積場を 75 か所→**80 か所に増設**



- 機動的な対応が可能となるよう当初から予算計上  
令和4年度、当初 216 億円、補正後 251 億円→**令和5年度 262 億円**

近年の極端な気象状況も踏まえ、道路状況や降雪状況に応じた対応で安全・安心な冬の道路環境を確保いたします。

- 生活道路の **緊急排雪**

全市的に排雪の遅れが見込まれると判断した時は、パートナーシップ排雪を待たずに、市が費用全てを負担して排雪作業を行います。

